

行動経済学会 研究報告予稿 昭和と平成における日本のヒット曲＝流行 歌の音程・音域・イクタスと経済状況の関心の分析

保原伸弘¹

一橋大学経済研究所

要旨

ヒット曲（流行歌）は周囲の経済状況との関連が強い製品（財）と考えられる。去年のヒット曲の調性やテンポと経済状況に関する分析に引き続き、日本の昭和期および平成期に流行ったヒット曲（流行歌）がもつ音域や音程に注目し、それらと経済状況との間の相関について考察する。

キーワード

音域 流行 社会心理とマクロ経済 経済動向

ストラビンスキーの「春の祭典」はファゴットの旋律から始まるが、この旋律は通常ファゴットがもつ音域より高い音域に属する。ブラームスの交響曲第3番の第3楽章は、チェロの旋律から始まるが、この旋律が属する音域はこの楽器が受け持つ音域としては高いものであり、本来この音域を奏すべき楽器はビオラである。このように、オーケストラを構成する楽器にはそれぞれ特有の音域というものが存在し、両曲においては、それぞれの楽器が本来受け持つ音域より高い音域を任されているわけである。このように本来楽器が持つ音域より高い音域に属する旋律を楽器に奏させると、音楽に独特の緊張度が生まれることになる。このような、本来より高い音域を楽器に奏させることにより独特の緊張感を生む効果を狙った管弦楽法を「イクタス」を利用したオーケストレーションと呼ばれる。

人声の場合でも、バス、テノール、アルト、ソプラノというように性別や各人の生来の特性により、その声域が各人大体決まっているが、時に各人の持つ本来の声域を無視して、それとは異なった声域を半ば強制的に任せる場合がある。イタリア・オペラの全盛の時期において、男性に半強制的な手術を施すことで、男性としての機能を失わせ、男声とも女声とも判別につかない歌声をもつ歌手（＝カストラート）が登場させたことがある。最近では、「もののけ姫のテーマ」の米良良一に代表されるような歌手が生来持つ高い声域とファルセット（＝裏声）の効果を併用したカウンター・テナーが登場している。これらの場合は、男性の歌手が、本来女声の声域に属する旋律を歌唱した例であるが、これらの歌唱により、楽曲に独特の雰囲気を与え、また緊張感を与えることになる。

¹ e-mail:pc01867@srv.hit-u.ac.jp

このような「イクタス」を利用した楽曲はもちろんのこと、楽曲の音程というものは、その楽曲がもたらす感情と密接な関係があると考えられる。通常の音程をもつ楽曲の場合でも、より低い音域が多い楽曲の場合はより平穏に安定した感情をあらわすのに適していると考えられるし、より高い音域が多い楽曲はより高揚した感情をあらわすのに適しているとも考えられる。

また、音楽全体の音域の傾向のみならず、楽曲のなかの旋律の進行において、隣接する音が2度の関係にある順次進行に比べ、たとえば6度の跳躍した進行に楽曲が直面した場合には、高揚感を楽曲にもたらすであろう。その結果、高揚した感情と密接な関係があり、順次進行が中心の楽曲が全体として平穏な感情をもたらすのに対し、跳躍進行の多い楽曲は起伏の激しい感情を聴衆にもたらすであろう。

さらに、楽曲のエンディングが上昇した進行で終わる場合は、楽曲の進行を経て、何か希望に達したか、最終的に願いを求めている心理状況を描くのに相応しいかもしれない。一方で、下降した進行で終わる場合には、楽曲の進行を経て、平穏あるいは失望に達した心理状況を描くのに相応しいかもしれない。

このように、楽曲を構成する主要な要素である、音域および音程というものは、楽曲のもつ性質、楽曲がもたらす感情と密接な関係があると考えられる。その傾向を探ることで楽曲自体の性質にも迫ることができると考えられる。日本のヒット曲（≒流行歌）も西洋音楽の伝統をくむ以上、その音程や音域には、楽曲の性質に相応しいものが選ばれるであろう。

一方、ヒット曲（≒流行歌）はその性質から、その楽曲が流行った時期の経済や社会の状況を反映するものと考えられ、各年の経済や社会の状況とは全く離れたところに位置することは不可能と考えられる。そのため、各年ヒット曲（≒流行歌）の性質から、各年の経済や社会の状況が読み取ることが可能かもしれない。

去年の第二回行動経済学会発表では、日本の昭和期と平成期におけるヒット曲のもつ性質として、調性やテンポをとりあげ、各年のヒットの調性やテンポと各年経済状況を示すGDPや景気動向指数との間の関係を調べ、両者が相関を持つことを示したが、第三回行動経済学会における本発表では、そのいわば第2弾として、ヒット曲の性質として、音程や音域をとりあげ、各年のヒット曲の音程や音域と各年の日本の経済状況（GDPや景気動向指数、日経株価指数）との相関がもつかどうかについて考察する。

ここで、去年は全音歌謡曲大全集の総索引をもとにした年次データを使用したのが、今年は、それにあわせて、毎週ごとにヒット・チャートが記載される「オリコンデータ」を利用し、分析の対象となる期間が1週間単位の週次データにする。

また、経済指標として、データの対象となる期間がより狭まったのに応じて、昨年のGDPや景気動向指数に加えて、株価（日経株価指数）についても考慮する。

楽曲の音域の計量については、音楽教育の分野で小川他（1995）の楽曲の音程および楽曲全体の音域を数値化する研究があり、それにしたがって、各年のヒット曲の音域の「重

心」となる値を計算する。

楽曲全体の音域の傾向以外の音程の進行における跳躍については、独自の指標を提示し、数量化を試みる。

参考文献

伊福部昭（1953），『管弦楽法』音楽之友社.

池内友次郎 他（1964），『和声 理論と実習』.

梅本堯夫（1966），『音楽心理学』，誠信書房.

小川容子 北山敦康 村尾忠広 高田俊治（1995）「幼児・児童の歌唱教材における音域分析の調査研究—子どもの声域との比較を通市て—」音楽知覚認知研究第1巻.

Patrik N. Juslin Jone A. Sloboda (2001). “music and emotion : theory and research”
Oxford University press.+

全音楽譜出版社（1981，1986，1991，1996，2001），『全音歌謡曲大全集』vol.4-9.

総務省統計局（1981-2001），『日本統計年鑑』.

オリコン・エンターテインメント（1958 -2005），『オリコン年鑑』.